

問題・課題の早期解決と 誠実で真摯な市政を



政策市民会議国分寺 皆川 りうこ (所属3名・賛成)

◆予算審査及び予算全体について

行政のチェック機関として多岐にわたる質疑を行う一方、行政側は資料の差し替えや答弁保留等散見された。また、課長がすべき答弁を部長が答弁し、役割の自覚の不十分さも見られ課題を残した。課長就任期間が短いにも関わらず答弁に臨んだ管理職については大いに評価する。予算編成では、一つ一つの事業の精査、検証で真に必要なものを計上し、臨時財政対策債を借りることのない予算の収支均衡は本来の姿だ。公債費については、下水道の特別会計を合算し全体で12.4%、約6億円減となり償還も進んだ。財政調整基金を7億6,645万4千円の積み増しは、財政弾力化に向けた取り組みとして評価する。

◆評価すべき個別事業、事項について

①まちの発信への取り組み。ふるさと納税、宇宙に関わるイベント②学校トイレの改修洋式化③嘱託1人で母子自立支援員・婦人相談員を兼任から1名増で体制強化。④駅再開発事業地の地下水の影響について国分寺地下水湧水保全条例の審議会へ諮問。⑤スポーツ振興計画の策定。介護予防や地域福祉等計画との連動、障害、多世代も参加できる点も視野に入れた内容とする。⑥佐渡市ジュニアサマー交流事業については世界農業遺産等学習的要素を加味した内容に見直し。⑦生ごみ堆肥化事業。無料で配布している堆肥は、ごみ減量に努力した市民へのインセンティブがはたらくよう公平性についての検討⑧東日本大震災による市内への避難者、自主避難者に対し誠実に対応。⑨スクールソーシャルワーカーも子どもの環境調整役としてきめ細かな対応がなされている。⑩本施政方針では男女平等施策と明記「市としても男女平等施策は重要」と副市長より明言。固定的役割分業の問題等本質的な視点を見失うことない行動計画を。

◆予算審査で明らかになった問題、課題

①国分寺駅地下駐車場のラック式から機械式への変更について不透明な政策形成過程。機械式は、一社のみで選定で強引に進めようとした質疑により、再度検討する旨の答弁だったが、資料の出し直しが2度もあり疑問は残ったまま。②日本公衆電話会費負担金については加入理由が不明。他の部署においては加入料金と使用料を相殺する等、自治法208条総計予算主義からして不適切な会計処理している事実が判明。③東京都補助事業の防犯カメラ設置。学校の生徒数等事情が異なるのに一律5台設置の理由、子どもの安全が目的であるのに24時間稼働の根拠も不明。カメラ設置条例検討の折には、国分寺市自治基本条例、個人情報保護条例を遵守できるかが課題。十分な検討、議論は必須。④市長の政策実現に向けて組織改正、改編等止むを得ないが、市民活動センター等移転に関しては今後の発展性など説明が不十分。⑤ビジョンが見えないアウトソーシングは問題。⑥待機児童の解消に向けた方針を示すべき。⑦約1,400万円もの業務プロセス分析委託事業は本当に必要か疑問⑧再開発事業の一時借入れの借入日、日数、返済日など不自然でまちまち。適切に対処するとの方向性が示されたが課題を残したまま。⑨28年度には5億8千万円の財源不足が財政フレームで明らかで次年度は大丈夫か。⑩高齢者

見守り事業は必要な事業だが、市の積極的働きではなかったことが判明。要綱の不備など事務上の課題があるため早急に改善すべき。

◆積み残された課題や問題は早期解決し、評価した事項については前進させ、新年度に向け最少の経費で最大の効果を生む行政運営を。市民の疑問等への対応は、真摯で誠実な姿勢であるべきことを求め、総合的に判断して賛成とする。

情報公開と市民参画で 市民との合意形成を



無会派 (国分寺・生活者ネットワーク) 高瀬 かおる (所属2名・賛成)

■平成26年度は、臨時財政対策債の借入れを行ったが、平成27年度予算は、臨時財政対策債を借入れず、財政調整基金の取り崩しも行わずに、収支均衡予算となったことに、まずは評価する。一般会計歳入予算では、特に、地方消費税交付金が約9億8千万円増と見込まれるなど、予算総額は前年度比、約23億円の増額となったが、市財政は、まだまだ厳しい状況に変わっていない。今後、超高齢社会を目前に、ますます増え続けるだろう扶助費をはじめ、公共施設等マネジメントの推進や清掃施設整備、新庁舎建設など、多額な支出が見込まれることから、長期的な視野に立った財政運営が必要だ。市民生活においても、昨年4月からの消費増税により物価は上昇、さらに円安の影響もあり、実質賃金が減少するなど、厳しい状況が続いている。このようなことから、国分寺市の財政状況を、市民にわかりやすく適切に情報公開し、優先してすすめる事業など、合意を図っていくことが必要だ。そのことを強く求める。

■個別事業について／介護予防事業は、身近な場所で楽しく続けられるように、市が実施している事業の成果と課題を検証し、地域で行われている取り組みと連携するなど検討が必要。地域資源の把握を進めていただきたい。また、歩いて行ける場所で事業が実施できるよう、高齢者施設の地域交流スペースを使わせていただくなど積極的な働きかけを提案／通学路の防犯カメラ設置については、プライバシーに最大限配慮したルールを定め、地域の合意を図るべき。

■平成27年は、戦後70年の節目の年。多様性を認め合い、誰もが対等で、お互いの人権を尊重できる社会は、平和に通じる。命を尊び、地域から平和を発信する教育、共生のまちづくりを進めることを要望し、賛成の討論とする。

アベノミクス“バブル” 崩壊後も見据えよ



無会派 (無所属) 甲斐 よしと (反対)

北口再開発事業の借金は現在119億、ピークは29年度147億、平成30年度まで返し続ける。下水道もまだ、106億借金がある。

市の公共施設等マネジメント検討委員会にて学校を始め市の公共施設の修繕や建て替えに来年度以降の10年間で平均28億必要、20年後のピーク時には72億円必要と記されている。

日野市、小金井市とのごみ焼却施設の国分寺負担分は40億を超えそうである。そこへ国3・4・12号線(北口駅前広場～日立中研北の通り、旧OKパークレーンを横切る新設道路)の事業

住民説明が年末になされ、来年度測量設計に1,250万計上。総事業費は50億超であろう。加えて新庁舎建設調査委託料712万円と本格的な新庁舎建設に取り組もうとしている。従来の計算でも建設費だけでも60億円は超えよう。加えて国分寺駅北口広場地下に建設予定の地下駐輪場の件では従来のラック平置き(15億。半分は補助金予定)が突如正式に三層の機械式駐輪場の導入となっており、31億(半分は補助金予定)に設計4億で総事業費35億円だという。委員会では改めて比較検討をする旨の答弁だが、予算上360万円の設計委託料は機械式導入の予算である。

現在、わが国ではアベノミクスのもと日銀は異次元緩和と言ひ、市場の国債や株式債券を買い支え、株式を始めとする資産のインフレを起こしている。しかし“バブル”は必ず崩壊する。こと人為的なバブルなら、崩壊は底割れする程深く落ちる。今日まで北口再開発の巨額支出により、高齢者事業費を始め縮減され市民にしわ寄せを生んだ。アベノミクスバブル崩壊、そしてオリンピックバブル崩壊を見据え、30年度の北口再開発の清算金が確定に入るまで、多額の借金を要す大型事業に手をつけるべきではない。

動きが見える井澤市政



無会派 (新和会) 伊藤 太郎 (賛成)

今回の平成27年度の一般会計予算の採決に賛成の立場で討論をいたします。

先ず財政については、施政方針に対する代表質問で述べましたので、違う観点から申し上げます。特に事業について申し上げます。

井澤市政になってからはや1年7か月、私は12年近く与党の市議会議員でした。前任の市政では行政が悪いのかそれとも議会が悪いのか事業が進みませんでした。個人的言えば、私の10年間は何だったのかと言いたい気持ちで一杯です。この10年間の評価については歴史に判断してもらいしかありません。

では私が申し上げる事業とは、市の東側から申し上げます。3・4・11国分寺街道のバイパス道路です。国分寺駅北口再開発はもちろんですが、駅に入る主要道路である3・4・12も着手し始めました。それに合わせて市のロータリーの地下に3,000台の自転車駐車場も検討段階にはいりました。そして市の東西南北を主要道路である、3・2・8と3・4・6の工事も始まっています。これらの中には、40年間交渉が進まない事業がいくつかあります。それ以外でも消防署の移転や3市構成されるごみ処理場も現在進行中です。つまり長い間時間をかけても進まなかったことが早いスピードで動いています。また福祉では老人保健施設(ベッド100床)と認可保育園を1園開設します。

今後の課題は市役所をいつどこに新設するのか? 今後増加する福祉の予算をどのように確保するのか? 水と緑の国分寺の緑被率を下げずに快適な空間を残していくのか? 野川の河川整備をいつ頃から始めるのか?

まだ道半ばですが、見通しがたってきました。これだけの事業が同時進行すれば、市民の皆様も日々市内の景色が変わると思います。

